

会 議 録 (要 旨)	
会議の名称	令和7年度第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会
開催年月日	令和7年11月5日(水)
開始・終了時刻	開始：午後3時、終了：午後4時20分
開催場所	高岡の森弘前藩歴史館 映像・講話室
議長等の氏名	瀧本 壽史 委員長
出席者	委員長 瀧本 壽史 副委員長 島内 智秋 委員 葛西 修造 委員 島田 しのぶ
欠席者	委員 小山 伸吉 委員 神 怜奈 委員 棟方 貴文
事務局職員 の職氏名	高岡の森弘前藩歴史館長 熊谷 義昭 館長補佐兼学芸員 鶴巻 秀樹 主幹兼運営係長 相澤 智香子 総括主査兼学芸員 澁谷 悠子
会議の議題	(1) 観覧料の見直しについて (2) 令和6年度事業報告 (3) 令和7年度事業経過報告 (4) 令和8年度事業計画
会議結果	下記会議内容に記載のとおり
会議資料の名称	令和7年度第1回高岡の森弘前藩歴史館協議会資料
会議内容(要旨) (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	<p><b>【案件1事務局説明】</b></p> <p><b>【案件1意見】</b></p> <p>委員：無料枠の拡大は良いことと思う。旅行会社の関係者が業務上でも有料であるとのこと聞いている。旅行会社や観光ガイドは新たなお客様を連れてくることもあるため無料とすべきと思うがどうか。</p> <p>事務局：今回の観覧料改定の条例改正には含まれないものである。旅行会社の事前打合せ下見や、実際のガイドツアーの際の添乗員や運転手・バスガイドは無料として運用してきた。ガイド日時が決まっておらず展示を漠然と勉強したいという方を有料としたことはある。ガイド・案内関係者の無料取り扱いについては周知が難しいとこともあるが、関係団体を通じての周知を試みたい。</p> <p>議長：有料部分について、博物館の企画展は市外500円・市内300円となると聞いているが、歴史館は一般300円に変更無しということか。</p> <p>事務局：そのとおり、歴史館は無料枠は広がるが、有料区分については現状と同じである。特別企画展を目途として500円と示しているが、条例上はその都度市長が決定することになっている。</p> <p>議長：大学生とは、年齢に関係なく学籍を持っているか否かか。</p> <p>事務局：そのとおり、年齢ではなく学籍で判断する。</p>

議長: 共通券の販売状況が低下したこと、また運用にトラブルがあったとのことで、具体的にはどのような状況だったのか。

事務局: 共通券販売状況については、年々低下する状況であり、平成30年度歴史館開館時と令和6年度を比較すると10分の1以下となった。共通券は、博物館の特別企画展で使用できず、両館の展覧会期によっては使用できないといった注意点がある。共通券の券面にも留意事項は列記されており、加えて販売する際に口頭でも伝えてはいたが、お客様が2館目に入館する際に思うように使えないとのことでトラブルになることがあった。

委員: 共通券を購入する方は両館に来てくれるファン層であるため、少なくなったとは言え大事にした方がよい。

事務局: ファン層は大切にしたい。両館入館でのお得感を出すため、ノベルティグッズをプレゼントする、また幾分か割引などが考えられるため、どのような手法が望ましいかを検討したい。

議長: 今回の観覧料等の見直しについては特段反対意見は無いということではあるが、これまで実施してきたサービスについて運用として可能かを検討して欲しい。観覧料や無料化については、歴史系博物館として同類の市立博物館だけでなく、市全体の文化系施設、社会教育施設としてどのように捉えるかという視点が必要である。

#### 【案件2事務局説明】

#### 【案件2意見】

委員: 岩木山方面へ来ている方々を、どのように歴史館・高照神社に引き入れるかという点で、誘導看板が不足しているのではないかと。特に高岡集落に入る交差点を気が付かれないことが多い。

事務局: 宝物殿運営時は県道弘前岳鱒ヶ沢線沿いに開催期間限定で数多くの捨て看板を設置し、神社・宝物殿の周知を図っていた。歴史館開館に当たっては、県道や市道の使用許可を得て常設の案内看板を設置し周知に努めてきたところであり、集落入口が分かりにくいのは事実であるものの、新たな案内板設置は予算面も含め難しい。

委員: 神社と歴史館とのお互いの周知が必要と思う。参拝者を歴史館に誘導するのも目立たないのではないかと。

事務局: 周囲が風致保安林で自然公園でもあるため周辺環境に配慮した色合いのもので、常設とするためには耐雪性能も考慮した案内板である必要がある。時期は限定されるが幟旗の設置など、参拝者向けの案内周知の手法を検討したい。

委員: 地元の保育園で絵馬制作のワークショップを開催している団体がある。保育園・幼稚園や小学校向けのイベントなどは実施しないのか。

事務局: 歴史館で行っているのは大人向けの解説や講座が多く、当館職員が幼児向けの体験イベントを実施するノウハウを持っていないのが現状であるが、若年層へのアプローチは重要だと捉えている。

委員: 幼児教育課程を持つ大学・短大等に依頼して、学生を交えての体験イ

ベントみたいなもの、例えば観て感じたものを描いてみようなど、実施することは可能と思う。交通費など若干の費用は必要ではあるが。

議長:若年層の取り込みを図る手立ては、無料化拡大の趣旨と同じと考えるので、実施に向けて検討して欲しい。

#### 【案件3事務局説明】

#### 【案件3意見】

議長:刀剣保護プロジェクトは令和7年度から午前・午後の2回に分けたのは、令和6年度が参加者が多すぎたということか。

事務局:50名近くの参加者があると後ろの方まで説明が聞こえないという意見もあったため、7年度は午前・午後の2回を2日実施し分散を図ったところ、10～20名程度と当館展示室で行う講座としては適正な人数になったものと思う。

議長:学校関係で100名を超える団体もあったようだが、どのように解説対応したのか。

事務局:この時は学校側と相談して3班に分けてもらった。歴史館の展示解説、高照神社の解説、説明は無いが岩木山神社の参拝ということで対応した。説明する学芸員が歴史館だけでは足りない場合は、市立博物館とも連携して確保している。

議長:高照神社は地元高岡の方々の管理によって成り立っているため、特に子供たちには地元の方から直接説明してもらうことが、この地域の特殊性の理解につながると思う。学校と町会と調整しながら解説対応できれば良いと思うが。

事務局:学校側の要望を確認しながら、町会と調整し可能であれば、地元住民による解説実施を試みたい。

議長:3月～5月など年度越えの展覧会期とすれば、年度末年度頭の多くの人が動く時期の集客が見込めるのではないか。市立博物館は協議会へ意見聴取をしながら計画的に進め、今年度も年度跨ぎの企画展・特別展を実施している。

事務局:企画展の会期については、資料を借り受けする場合は所蔵者の意向や都合に合わせる必要があるが、館蔵品を中心とした企画展であれば自由に会期を定めることができるため、年度跨ぎの企画展開催も可能である。

議長:年度跨ぎの企画展は、4月の人事異動に左右されずに開催できるメリットもあると思う。市立博物館からも課題や現状を聴取しながら、進めてみてはどうか。

議長:図録や絵葉書など販売物はどのように企画し販売しているのか。

事務局:博物館は後援会がグッズ企画・販売しているものと、市直営で企画・販売しているものがある。歴史館は後援会・友の会組織が無いいため直営だけである。

議長:博物館後援会は年間通し券のようなものがあると聞く。何回でも歴史館の刀剣を観たいという方はいると思うので年間パスポートのようなものはできないか。

事務局:弘前公園や他の博物館等でも年間券を設定しているため可能だと思うが、当館でどのような需要があるかも考慮する必要がある。

委員:特に刀剣のファンは熱烈な人が多いように思う。

議長:年間パスはコアなファン層を取り込む手法として重要と思う。入館者数だけに捉われないで欲しい。

事務局:年間パスを検討したい。

#### 【案件4事務局説明】

#### 【案件4意見】

委員:資料には無いが流鏝馬開催の予定は。

事務局:日程は調整中だが6月下旬の日曜日開催を予定している。

委員:令和7年9月に町会と高照神社を盛り上げたいとする団体を中心として開催した「ネオ宵宮」について、8年度は流鏝馬と同時に開催すれば集客を見込めるのではないかと思うがどうか。

事務局:流鏝馬開催時は来訪者の駐車スペースが不足するのが常態化していることもあり、「ネオ宵宮」のイベントスペースとして駐車場を使用することにより、流鏝馬開催時の駐車場の不足・混雑に拍車がかかることを懸念する。「ネオ宵宮」を開催し高照神社への集客を図る団体との連携は考えていきたいが、駐車場の確保のことを考慮し、イベントは同日に重複せず分けて行うことで何度も高照神社に訪れてもらうことが良いのではないかと考える。

委員:様々な団体や思いのある個人と連携することによって、この地域や歴史館が盛り上がることにつながる。歴史館職員も様々な会合等にも積極的に参加して、多くの方々からの意見を直接聞いて欲しい。

議長:8年度の事業計画に展覧会が示されているが、流鏝馬を含め様々な事業や講座の実施を予定していると思う。次年度の資料には展覧会以外の事業予定も示した上で、この協議会で議論・意見聴取をした方が良い。